

4. 琵琶湖における特別域（案）の検討

上記の現地調査結果によれば、保護水面に指定されている湖北町地先（海老江・延勝寺）（表 3.1.6, 表 3.1.7）、ヨシ群落保全区域に指定されている西浅井町岩熊地先、高島市針江地先及び草津市新浜地先（表 3.1.8, 表 3.1.9）において、コイ、フナ類及びホンモロコの魚卵や稚仔魚が採集されており、この地域で産卵場、生育場として形成されていることが確認できる（図 4.1）。

琵琶湖における特別域の指定については、水産資源保護法に基づき、保護水面に指定されている水域において、継続的に現地調査が実施され産卵等の実態が把握されている水域があげられ、これらの条件を満たしている延勝寺・海老江とこの区域を含む湖北町（ヨシ帯及びその周辺の同等の環境を有する水域（ヨシの最大分布水深と常時監視実施の可能性を考慮したおおむね 3m 以浅の水域とする。以下同じ））を指定することが適当と考えられる。

また、琵琶湖において、主要魚介類の生態特性・地理条件・水質条件からみて重要と考えられる沈水植物群落、抽水植物群落、砂・礫・岩礁帯及び浅場について、漁場分布及び魚卵・稚仔魚の分布調査結果からみた魚介類の利用状況と照合して、産卵場、生育場として重要性を検討した結果、ヨシ群落保全区域と指定されている西浅井町岩熊地先（ヨシ帯及びその周辺の同等の環境を有する水域）、高島市針江（ヨシ帯及びその周辺の同等の環境を有する水域）及び草津市新浜（ヨシ帯及びその周辺の同等の環境を有する水域）が好適な産卵場等として考えられ、これらを特別域として選定することが適当と考えられる。

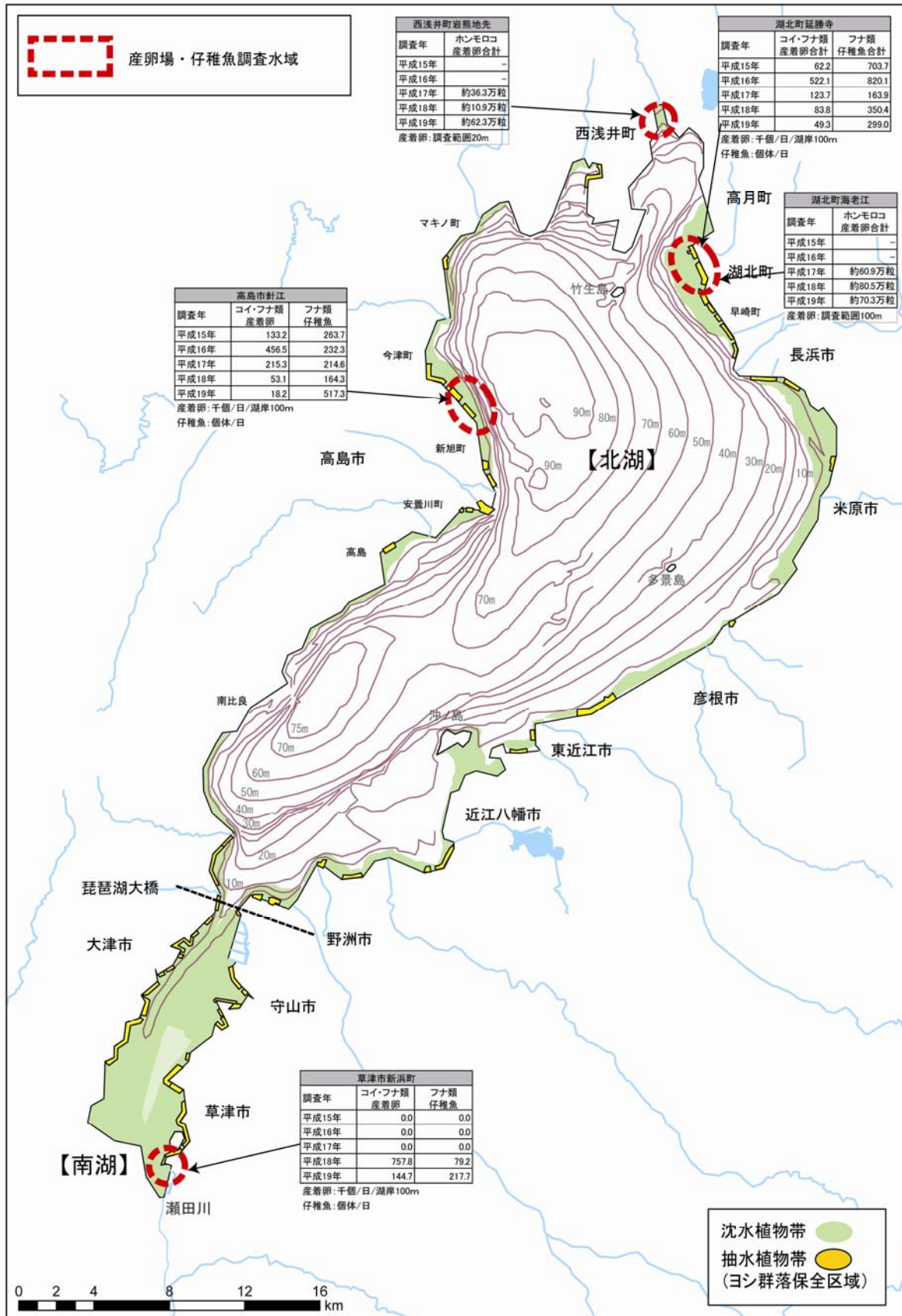


図 4.1 産卵・仔稚魚調査地点と調査データ

4.1 西浅井町岩熊地先

当該水域は、北湖北部の西浅井町地先に位置し、大坪川・大川・岩熊川等が流入部する塩津湾奥部にあたる。3つの流入河川の河口部沖合の水深 2m以浅にはヨシ主体の抽水植物帯が分布しており、その沖合から湾口域まで沈水植物が広がっている。また、貧酸素水塊の影響は受けない水域と考えられる。

当該水域のヨシ帯ではホンモロコの継続的な産卵が行われており、平成 17 年～19 年（春～夏期）には 11 万粒～62 万粒の産着卵が確認されており、この産卵実績から見てヨシ帯はホンモロコの産卵場として重要な水域になっているものと考えられる。特に、水深 0.5m以浅のヨシ帯はコイ・フナ類の成育場とされている生態特性から見ても 1m以浅に隣接・連続的に分布しているヨシ帯は重要な水域と考えられる。

また、魚介類の幼稚は移動能力が低く、外敵に捕食されやすいため、生育場としては摂餌場及び隠れ場となる水域が隣接あるいは連続し、多く存在することが望ましい。沈水植物帯における産卵場・生育場としての利用実績に係る継続的な調査データが十分では無いが、琵琶湖代表種であるホンモロコは水深 3m 以浅を生育場として利用している。ヨシの最大分布水深と常時監視実施の可能性を考慮したおおむね 3m 以浅の水域の範囲は特に重要であると考えられる。

上記より西浅井町岩熊地先においては、水深 3m以浅の抽水植物帯を中心とした水生植物帯の範囲を特別域（案）とした。

なお、当該水域の南側の月出地先には滋賀県禁止区域（フナ・モロコ）が設定されているが、当該地点における産卵・生息データ等が不足しているため、今後、現地調査によるデータ取得・蓄積することが望ましいと考えられる。

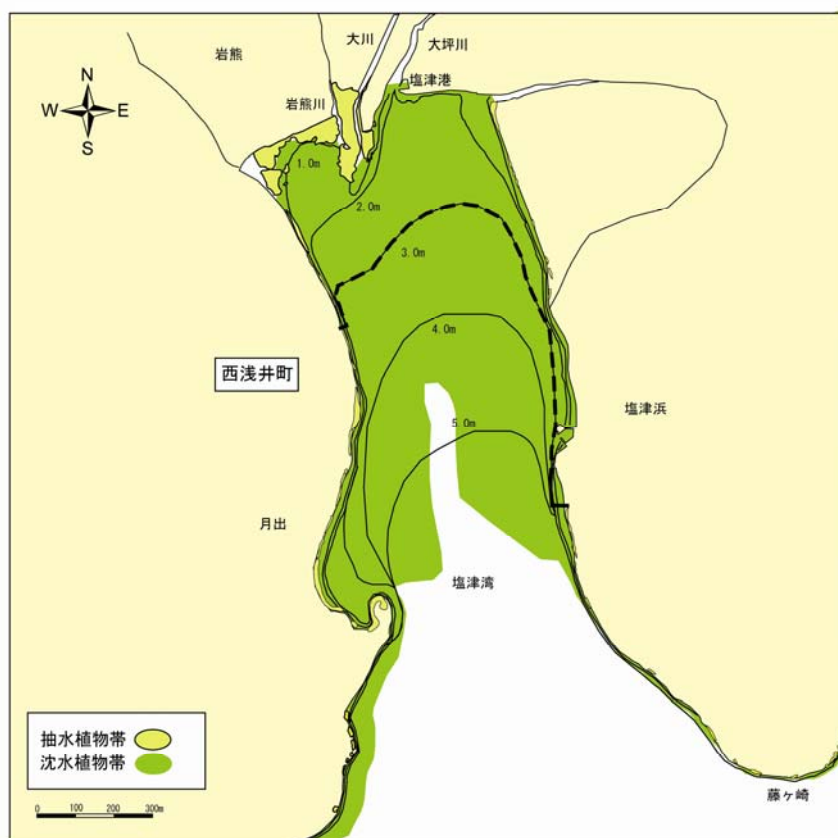


図 4.2a 西浅井岩熊地先の特別域（案）

4.2 湖北町延勝寺・海老江

当該水域は、北湖北東部の湖北町地先に位置し、北側には余呉川・南側には丁野木川が流入している。水深 2m 以浅の湖岸にはヨシやヤナギ等の抽水植物が広がり、沖合方向 150m まで分布しており、さらに沖には沈水植物帯が沖合 2km まで広がっている。貧酸素水塊の影響を受けない水域となっている。

当該水域は水産資源保護法の保護水面に指定されており、フナ(ニゴロブナ)・モロコ(ホンモロコ)が保護対象となっている。当該水域の海老江(ヨシ帯)ではホンモロコの継続的な産卵が平成 17 年以降確認されており、延勝寺(ヨシ帯)ではコイ・フナ類の産卵、フナ類の仔稚魚も平成 15 年以降継続して確認されている。また、当該沿岸はエリ漁場として利用されていることから、ヨシ帯がコイ・フナ類等の産卵水域であることが推察できる。これらの産卵実績・漁場利用状況からヨシ帯はコイ・フナ類の産卵場・成育場として重要な水域になっているものと考えられる。

また、魚介類の幼稚は移動能力が低く、外敵に捕食されやすいため、生育場としては摂餌場及び隠れ場となる水域が隣接あるいは連続し、多く存在することが望ましい。沈水植物帯における産卵場・生育場としての利用実績に係る継続的な調査データが十分では無いが、琵琶湖代表種であるホンモロコは水深 3m 以浅を生育場として利用している。ヨシの最大分布水深と常時監視実施の可能性を考慮したおおむね 3m 以浅の水域の範囲は特に重要であると考えられる。

上記から湖北町延勝寺・海老江水域では、ヨシ帯を基本とし、保護水面・ヨシ保全区域を含めた水深 3m 以浅の水生植物帯を特別域(案)とした。

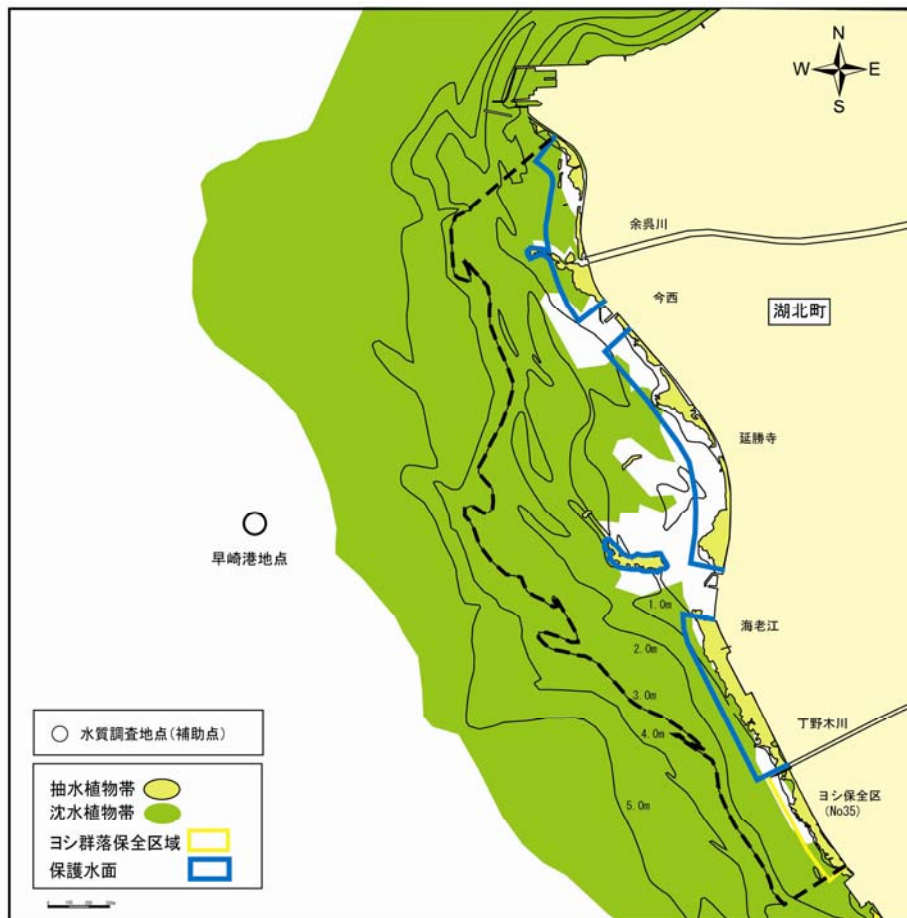


図 4.2b 湖北町延勝寺・海老江の特別域(案)

4.3 高島市針江

当該水域は、北湖北西部の高島市針江地先に位置し、北側には田井川・南側には針江大川が流入している。水深 2m 以浅の湖岸にはヨシやヤナギ等の抽水植物が広がり、沖合方向 150m まで分布しており、さらに沖には沈水植物帯が沖合 1Km 程度まで広がっている。貧酸素水塊の影響を受けない水域となっている。

当該水域のヨシ原については滋賀県ヨシ原保全条例に基づく保全区域に指定されている。当該水域の針江（ヨシ帯）ではコイ・フナ類の産卵、フナ類の仔稚魚も平成 15 年以降継続して確認されている。また、当該沿岸はエリ漁場として利用されていることから、コイ・フナ類等の産卵水域であることが推察できる。これらの産卵実績・漁場利用状況からヨシ帯はコイ・フナ類の産卵場・成育場として重要な水域になっているものと考えられる。

また、魚介類の幼稚は移動能力が低く、外敵に捕食されやすいため、生育場としては摂餌場及び隠れ場となる水域が隣接あるいは連続し、多く存在することが望ましい。沈水植物帯における産卵場・生育場としての利用実績に係る継続的な調査データが十分では無いが、琵琶湖代表種であるホンモロコは水深 3m 以浅を生育場として利用している。ヨシの最大分布水深と常時監視実施の可能性を考慮したおおむね 3m 以浅の水域の範囲は特に重要であると考えられる。

上記から高島市針江水域では、ヨシ帯を基本とし、ヨシ保全区域を含めた水深 3m 以浅の水生植物帯をを特別域（案）とした。

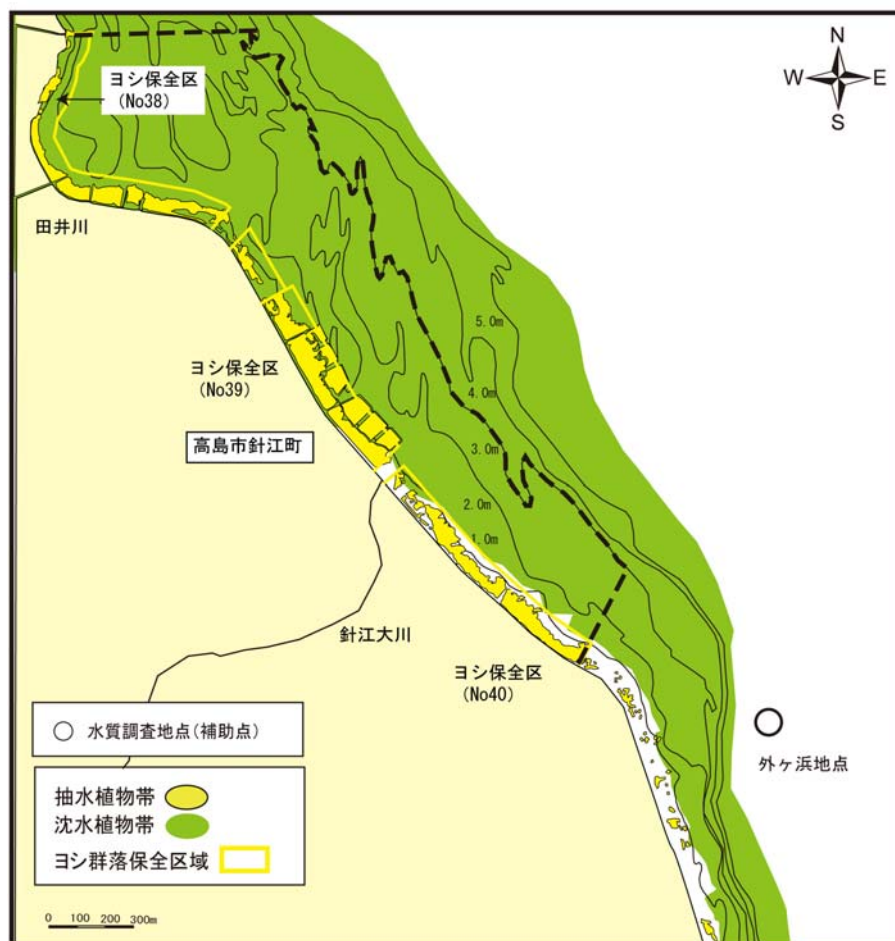


図 4.2c 高島市針江の特別域（案）

4.4 草津市新浜

当該水域は、南湖南部の草津市新浜地先に位置し、北側には矢崎帰帆島、西側には近江大橋・大津市、南側には琵琶湖最南部・瀬田川が位置する。水深 2m 以浅の湖岸にはヨシやヤナギ等の抽水植物が分布し、前面全域には沈水植物帯が広がっている。なお、南湖では浚渫窪地内で貧酸素化することが確認されているが、窪地周辺底層では貝類等の生息が確認されていることから大きな影響は受けないと考えられる。

当該水域のヨシ原は滋賀県ヨシ原保全条例に基づく保全区域に指定されている。当該水域の草津市新浜（ヨシ帯）ではコイ・フナ類の産卵、フナ類の仔稚魚も平成 17 年以降継続して確認されており、この産卵実績からみてヨシ帯はコイ・フナ類の産卵場・成育場として重要な水域になっているものと考えられる。特に、水深 0.5m 以浅のヨシ帯はコイ・フナ類の成育場とされている生態特性から見ても 1m 以浅に隣接・連続的に分布しているヨシ帯は重要な水域と考えられる。

また、魚介類の幼稚は移動能力が低く、外敵に捕食されやすいため、生育場としては摂餌場及び隠れ場となる水域が隣接あるいは連続し、多く存在することが望ましい。沈水植物帯における産卵場・生育場としての利用実績に係る継続的な調査データが十分では無いが、琵琶湖代表種であるホンモロコは水深 3m 以浅を生育場として利用している。ヨシの最大分布水深と常時監視実施の可能性を考慮したおおむね 3m 以浅の水域の範囲は特に重要であると考えられる。

上記から草津市新浜水域では、ヨシ帯を基本としヨシ保全区域を含めた水深 2.5m～3.0m 以浅の水生植物帯を特別域（案）とした。



図 4.2d 草津市新浜の特別域（案）

5. 琵琶湖における特別域指定の留意点

今回、特別域に指定しない水域としては、主要な魚介類の生態特性からみて、北湖北端内湾部、北湖北東部～南部湖岸、北湖西部湖岸部及び南湖湖岸部における抽水・沈水植物帯（水生植物帯）、砂・礫・岩礁帯が産卵場・生育場として有用な水域であると推測されるが（表 5.1、図 5.1）、現在のところ産卵等の実態を示すデータがないことから、今後これらの水域に留意して調査を実施する必要がある。

表 5.1 魚介類の生態特性等・利用状況からみた水生植物帯等好適水域の留意点

水域	区分（水深）	生態特性・地理条件・水質条件からみた好適な産卵場・生育場	漁場形成からみた利用状況	留意点・課題
北湖北端内湾部（塩津湾・大浦湾・海津大崎・葛籠尾崎等を含む）	抽水植物帯（2m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	魚卵・稚仔魚の分布状況を実施し、主要な魚介類による利用状況を把握する必要がある。
	沈水植物帯（10m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	
	砂・砂礫（10m 以浅）	スゴモロコ・セタシジミ（産卵場・生育場）、ヨシノボリ類（産卵場）		
	礫・岩礁帯（10m 以浅）	イサザ・ヨシノボリ類（産卵場）		
北湖北東部～南部湖岸	抽水植物帯（2m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	
	沈水植物帯（10m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	
	砂・砂礫（10m 以浅）	スゴモロコ・セタシジミ（産卵場・生育場）、ヨシノボリ類（産卵場）	セタシジミ（産卵場・生育場）	
	礫・岩礁帯（10m 以浅）	イサザ・ヨシノボリ類（産卵場）		
北湖西部湖岸	抽水植物帯（2m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	
	沈水植物帯（10m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	
	砂・砂礫（10m 以浅）	スゴモロコ・セタシジミ（産卵場・生育場）、ヨシノボリ類（産卵場）	セタシジミ（産卵場・生育場）	
	礫・岩礁帯（10m 以浅）	イサザ・ヨシノボリ類（産卵場）		
南湖湖岸	抽水植物帯（2m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	
	沈水植物帯（10m 以浅）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	コイ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・ホンモロコ等（産卵場・生育場）	

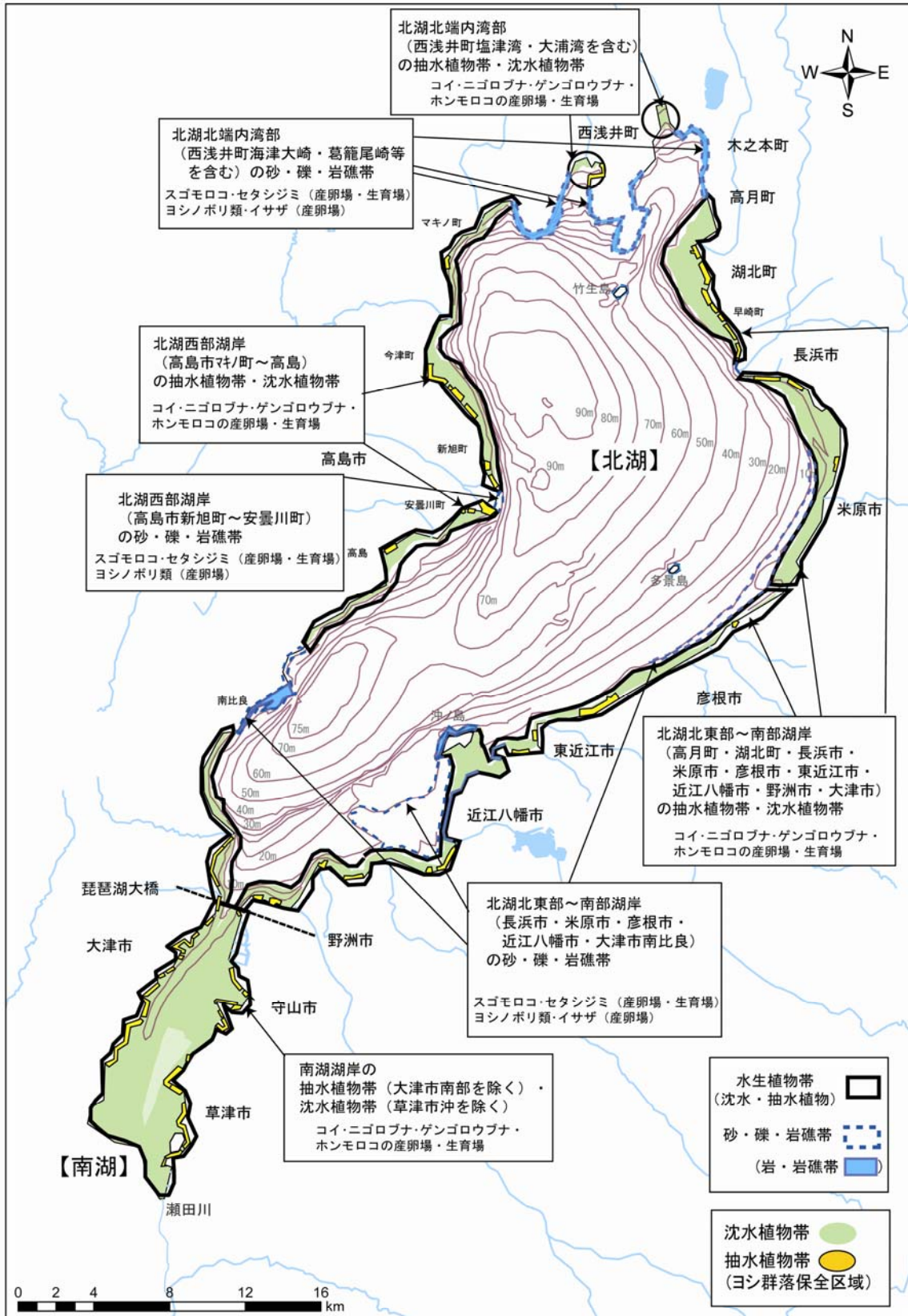


図 5.1 魚介類の生態特性等・利用状況からみた水生植物帯等好適水域